

淀川水系河川整備計画原案の概要

【河川整備の目標と施策メニュー】(計画対象期間:概ね20~30年間)

①人と川との繋がり

目標:参加型の河川整備を目指す

- ・水と人の関わりの中で培われた歴史・文化の薫る川づくり
- ・住民・住民団体、学識経験者との連携、川づくりへの住民参画
- ・情報の共有と公開の推進、等

②河川環境

目標:『川が川をつくる』のを手伝うという考えのもと、連続性の確保、ダイナミズムの再生、水循環の健全化を目指す

- ・ワンドの再生、攪乱のための施設操作
- ・河川、琵琶湖、ダム湖の水質改善
- ・川以外も含む徹底した縦横断方向の連続性の確保、等

③治水・防災

目標:上中下流のバランスを確保しつつ、戦後最大洪水を安全に流下させる。また、施設能力を上回る洪水が発生したときにも流域全域において被害をできるだけ軽減できるようにする

- ・上中下流バランスを考えた治水対策(※右図「主な事業」を参照)
- ・流下障害となっている橋梁の架け替え
- ・瀬田川洗堰の全閉解消に向けて操作規則の見直し
- ・琵琶湖明治29年洪水への対応
- ・情報伝達、避難体制整備等の危機管理体制の構築、等

④利水

目標:水需要の抑制を図り、節水型の社会を目指す

- ・水需要の抑制
- ・既存水資源開発施設の再編と運用の見直し、新規水源の確保
- ・流水の反復利用回数低減による水源の安全性確保、等

⑤利用

目標:都市域のコミュニティー空間として、身近な自然を楽しめ、川と街の一体感が体現できるような河川整備を行う

- ・まちづくりとの連動、舟運の復活、環境学習、防災学習の場としての活用
- ・プレジャーボート等の水面利用の適正化、等

⑥維持管理

目標:洪水・高潮等による災害が防止され、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持されるとともに、河川環境の保全・再生を目指す

- ・河川管理施設の機能保持、等

主な事業(上中下流バランスを考えた治水対策)

